

- 問1 九州の北方に位置し、古くから日本列島と朝鮮半島を結ぶ海上交通の中継地となってきた島と、その付近を通り日本海へと流れ込む暖流の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
1. 対馬・リマン海流 2. 壱岐・日本海海流 3. 対馬・対馬海流 4. 壱岐・対馬海流
- 問2 鹿児島県において、火山活動による噴出物が堆積して形成された台地は、標高が急上昇したのちに平坦な面が広がる地形で構成されています。この台地を形成し、水はけが非常に良いという性質を持つ地層や物質の名称として、最も適切なものを選択してください。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 関東ローム 2. 泥炭 3. シラス 4. マサ土
- 問3 福岡県の工業は、かつては北九州工業地帯を中心とした鉄鋼業や化学工業などの重化学工業が盛んでしたが、1970年代の石油危機以降、産業構造に大きな変化が見られました。この変化の内容と背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 東京都公立入試 類似)
1. 1980年以降、製造業が県外の愛知県や神奈川県へ流出したため、工業地帯を縮小し、九州地方の特産品を活かした農業中心の産業構造へと転換した。
2. 環境問題への対策として沿岸部の工場をすべて閉鎖し、福岡市を中心とした商業と観光業のみに特化する政策をとったことで、工業出荷額は減少傾向にある。
3. 石油危機を契機に北九州工業地帯の鉄鋼業をさらに強化し、海外からの原料輸入に頼らない自給自足の体制を整えることで、製造品出荷額を維持した。
4. 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。
- 問4 日本の諸地域の気候を統計資料から判別する場合、宮崎県（宮崎市）のデータに該当する特徴的な数値の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 1月の平均気温が氷点下となり、年間の降水量は季節による大きな変動がなく一定である。
2. 8月の平均気温は約28度まで上がるが、年間の降水量は1200mm程度と非常に少ない。
3. 1月の平均気温が約10度と高く、さらに6月と9月に降水量の大きなピークが見られる。
4. 1月の平均気温が約5度であり、12月から2月にかけての降水量が1年で最も多い。
- 問5 沖縄県の農産物において、県全体の栽培面積の割合を見ると、本島北部の東村が34%、石垣市が27%、国頭村が9%、名護市が8%を占めている果実があります。この果実の名称として正しいものを選びなさい。 (2018年 沖縄県公立入試 類似)
1. パイナップル 2. マンゴー 3. スイカ 4. 紅芋
- 問6 九州地方の阿蘇山などに代表される、火山の大規模な噴火によって形成された、大きなくぼ地状の地形を何といいますか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. シラス台地 2. カルデラ 3. 扇状地 4. 三角州
- 問7 九州地方に位置するある県は、年間の農業産出額が4000億円を超え、全国でも有数の農業県として知られています。この県の農業産出額の内訳において、豚や肉用牛、ブロイラーなどの「畜産」が占める割合は約60.9%と過半数に達していますが、この県はどこですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 鹿児島県 2. 北海道 3. 宮崎県 4. 茨城県
- 問8 土地の条件に応じた人々の生活の工夫について、南九州のシラス台地における水利用の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)
1. 土地が非常に平坦で水が滞留しやすいため、住居を高く盛り土した「輪中」のような構造の中に井戸を掘った。
2. 地表の土壌が非常に硬く掘削が困難なため、遠方の河川から「疎水」と呼ばれる長い水路を引いて水を確保した。
3. 火山灰が堆積した層は水分を保持しにくいので、地下数十メートルの帯水層まで届く深い井戸が作られた。
4. 水田稲作に適した粘土質の土壌が広がっているため、ため池を各地に作り、網の目のような用水路を張り巡らせた。
- 問9 九州地方の宮崎平野などで盛んな、冬でも温暖な気候やビニールハウスなどの施設を利用することで、作物の成長を早めて出荷時期をずらす栽培方法を何といいますか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 二毛作 2. 近郊農業 3. 抑制栽培 4. 促成栽培
- 問10 東京から各都市への鉄道による移動時間を地図上の距離に置き換えた変形地図において、2010年から2014年の間に、九州南部方面の距離が他の主要都市と比べて劇的に短く変化した様子が示されることがあります。このような変化をもたらした主な要因として最も適切なものはどれですか。 (2022年 広島県公立入試 類似)
1. 九州新幹線の全線開業により、山陽新幹線との直通運転が開始されたこと
2. リニア中央新幹線の先行区間が開業し、西日本方面への移動が高速化したこと
3. 青函トンネルの開通により、本州と周辺の島々を結ぶ鉄道網が連結されたこと
4. 格安航空会社（LCC）の就航が相次ぎ、空路による移動の選択肢が増えたこと
- 問11 1990年代末から2010年にかけて、沖縄県を訪れる中国人観光客の数は474人から10,888人へと急増しました。このような変化が起きた背景にある、中国国内の経済状況の説明として最も適切なものはどれですか。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
1. 中国のGDPが世界第1位に到達し、政府が国民全員に海外旅行を義務付ける制度を導入した。
2. 中国国内の農業生産が停滞したため、食料を確保するために近隣諸国へ渡航する人々が増加した。
3. 中国のGDP（国内総生産）が増大し、国民の生活水準が向上したことで、海外旅行を楽しむ層が拡大した。
4. 中国の経済格差が完全に解消され、すべての農村部の人々が自由に沖縄へ旅行できるようになった。
- 問12 九州地方の産業構造を分析した際、農業産出額における「畜産」の割合が特に高い県と、地域内で最大の「工業出荷額」を記録している県の名称として適切なものはどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 畜産の割合が高いのが宮崎県、工業出荷額が最大なのが福岡県
2. 畜産の割合が高いのが宮崎県、工業出荷額が最大なのが佐賀県
3. 畜産の割合が高いのが佐賀県、工業出荷額が最大なのが福岡県
4. 畜産の割合が高いのが福岡県、工業出荷額が最大なのが宮崎県
- 問13 九州地方南部に位置する鹿児島県では、肉用牛や豚、ブロイラーといった畜産業が全国有数の規模で行われています。このように、鹿児島県で稲作よりも畜産業や畑作が発展した地理的な要因として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 火山灰が積み重なってできたシラス台地は水持ちが悪く、稲作に向かないであったため。
2. 日本海を流れる対馬海流の影響で年間を通じて降水量が多く、牧草の成長が早いから。
3. 平野部が広大で機械化が容易であり、大規模な牧草地の確保が容易であったため。
4. 内陸部の盆地において、冬の厳しい寒さを利用した飼育方法が確立されたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 対馬・対馬海流	九州の北方に位置する対馬は、朝鮮半島との距離が近く、古くから外交や貿易の要衝としての役割を果たしてきました。この対馬の近海を通り、東シナ海から日本海へと北上する暖流は対馬海流と呼ばれます。選択肢にある奄岐は対馬と九州本土の間に位置する島であり、リマン海流は日本海を南下する寒流のことです。
問2	答え 3 シラス	鹿児島県などの南九州に広く分布するこの地層は、過去の巨大カルデラ噴火による火砕流などの噴出物が堆積してできました。多孔質で水はけが極めて良いため、稲作には不向きですが、サツマイモや茶などの畑作が盛んに行われています。関東地方に見られる火山灰層である関東ロームと混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 4 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。	福岡県では、官営八幡製鉄所の操業以来、北九州市の沿岸部を中心に鉄鋼業などの重化学工業が発展してきました。しかし、1970年代の石油危機による不況を境に、産業構造の転換が進みました。広大な用地や労働力を求めて、内陸部や県東部に自動車工場が進出したことで、加工組立型の工業が成長し、県全体の産業を支える新たな柱となりました。
問4	答え 3 1月の平均気温が約10度と高く、さらに6月と9月に降水量の大きなピークが見られる。	宮崎市の気候データでは、低緯度であることと暖流の影響により、冬場の気温が他地域に比べて高いことが最大の特徴です。降水量の推移については、初夏の梅雨（6月）と秋の台風（9月）の時期に明確な山（ピーク）が形成され、年間の合計降水量も全国的に見て高い水準になります。選択肢にある「冬の降水量が1年で最も多い」ものは日本海側の気候、「年間の降水量が1200mm程度と非常に少ない」ものは降水が遮られる瀬戸内側の気候の特徴を示しています。
問5	答え 1 パイナップル	東村や石垣市は、沖縄県特有の酸性の赤土（国頭マージ）が広がる地域であり、この土壌に適したパイナップルの栽培が大規模に行われています。特に本島北部の東村は「パインの村」として知られ、県内最大の栽培面積を誇ります。選択肢にあるマンゴーやスイカも沖縄で栽培されていますが、東村や石垣市が突出した割合を示すのはパイナップルの特徴です。
問6	答え 2 カルデラ	火山の噴火によって地下のマグマが噴き出し、その後に地表が陥没したり、浸食を受けたりすることで、円形に近い巨大なくぼ地が形成されます。阿蘇山はこのカルデラの中に集落や田畑、鉄道が広がっている世界的にも珍しい地域です。選択肢にあるシラス台地は火山灰が堆積してできた台地であり、地形の形状や成り立ちが異なります。
問7	答え 1 鹿児島県	鹿児島県は、火山噴出物が積み重なってできたシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪いため稲作には不向きな土地が多く存在しました。そのため、畑作や畜産が発展し、現在では豚、肉用牛、ブロイラーの飼育頭数が全国トップクラスとなっています。農業産出額の6割以上を畜産が占めるという構造は、全国的に見ても非常に顕著な特色です。
問8	答え 3 火山灰が堆積した層は水分を保持しにくいいため、地下数十メートルの帯水層まで届く深い井戸が作られた。	シラスは火山灰などの噴出物が積み重なってできた土壌であり、非常に水を通しやすい性質を持っています。台地の上では水がすぐに地下へ抜けてしまうため、古くから水不足に悩まされてきました。この問題を解決するために、鹿児島県の一部地域では60メートルを超えるような深い垂直の井戸を掘り、地下深くの帯水層から水を汲み上げる工夫がなされました。これは、関東地方の火山灰土である関東ローム層とは異なる、シラス特有の堆積の厚さと性質に起因するものです。
問9	答え 4 促成栽培	宮崎県などの温暖な地域では、冬の暖かさを活かしたり、施設内で温度調節を行ったりすることで、本来の収穫時期よりも早く作物を育てる手法がとられています。これにより、他の地域からの出荷が少ない冬から春にかけて市場に供給することが可能になります。対義的な用語である「抑制栽培」は、高冷地などの冷涼な気候を利用して出荷時期を遅らせる方法を指します。
問10	答え 1 九州新幹線の全線開業により、山陽新幹線との直通運転が開始されたこと	交通網の整備、特に新幹線の開業は「時間距離」を大幅に縮小させます。2011年の九州新幹線の全線開業は、それまで乗り換えが必要だった九州南部と本州を直結させ、地図上で表現した際の「東京からの時間的距離」を劇的に短縮させる要因となりました。他の選択肢にあるLCは航空路、リニアは将来計画や別区間、青函トンネルは北海道方面に関する記述であるため、九州の変化の説明としては不適切です。
問11	答え 3 中国のGDP（国内総生産）が増大し、国民の生活水準が向上したことで、海外旅行を楽しむ層が拡大した。	中国では継続的な経済成長により、2010年にはGDP（国内総生産）が日本を抜いて世界第2位となりました。この経済発展に伴って都市部を中心に国民の生活水準が向上したことが、海外旅行を希望する層の増加につながりました。沖縄は地理的に中国に近いこともあり、リゾート地としての需要が急速に高まったことが、観光客数の劇的な増加の主な要因です。
問12	答え 1 畜産の割合が高いのが宮崎県、工業出荷額が最大なのが福岡県	宮崎県は広大な土地や気候条件を背景に、ブロイラーや豚などの飼育が盛んな「畜産王国」としての側面を持っています。対して福岡県は、北九州工業地帯の歴史的背景や、近年の自動車工場の進出などにより、九州の工業を牽引する立場にあります。選択肢に含まれる佐賀県は、平野部で米の生産が盛んですが、工業出荷額や畜産の割合で宮崎県や福岡県を上回ることはありません。
問13	答え 1 火山灰が積み重なってできたシラス台地は水持ちが悪く、稲作に不向きであったため。	鹿児島県の大部分を覆うシラス台地は、火山噴出物が堆積してできたもので、水はけが良すぎるために水を溜めておくことが難しく、古くから稲作には適さない土地でした。そのため、水分をそれほど必要としないサツマイモや茶などの畑作に加え、広い土地を有効に活用できる肉用牛や豚、ブロイラーなどの畜産業が地域の基幹産業として発展しました。